

# AGRI WORK POINT

アグリ ワーク ポイント



## 収穫後のほ場管理

農業経営支援課 渡辺 彰人

### 土の老化を防ぎ良い土を作りましょう

稲わらは、土づくりにとって貴重な有機物資源であり、ケイ酸が多く含まれています。水田にすき込むことで、土中で分解されてケイ酸分の供給源となり、土壤微生物の増加や土壌物理性の改善にもなります。地温の高い時期に耕起作業を行い、稲わら腐熟を早めましょう。

#### 稲わら腐熟促進

・石灰窒素 10 ～ 20 kg / 10 a (ジャンボタニシ軽減駆除も兼ねて)

・わらゴールド 30 ～ 45 kg / 10 a

※稲わらを畑等で使用する場合は、ケイ酸が不足するため10 aあたりの土壌改良材を1 ～ 2袋追加します。

### 土壌改良資材を積極的に施用しましょう

ケイ酸資材を施用すると、登熟が向上して粒太りが良くなります。また、発根を促進し、茎や葉を丈夫にするので倒伏や病害虫に強くなります。

・けい酸加里プレミア34 60 kg / 10 a

ケイ酸と加里の相乗効果で根張りが良くなり根が活性化します。

・とれ太郎 80 kg / 10 a

農作物へのケイ酸吸収が高く、リン酸・苦土・石灰を含むので稲が健全に育ち、収量や品質の向上につながります。

・オイスターミネラル 100 kg / 10 a

カキ殻とケイ酸のダブル効果で強い稲づくりができます。

### 来年度の雑草を減らす

刈取り後、雑草が生育している時期に除草剤を使用することで来年度の種子や越冬する雑草を減らすことができます。

・クロレイトS粒剤 20 ～ 25 kg / 10 a

・プリグロックスL 1000 ～ 1500 g / 10 a

※右記農薬は毒劇物になります。お買い求めの際は、印鑑をご持参ください。